

ブルース・グラッドウィン

オーストラリアのアーティスト兼舞台演出家。1999年よりバック・トゥ・バック・シアターの芸術監督を務め、『メンタル』（1999）、『ドッグ・ファーム』（2000）、『ソフト』（2002）、『スモール・メタル・オブジェクト』（2005）、『フード・コート』（2008）、『THE DEMOCRATIC SET』（2009）、『ガネーシャ VS. 第三帝国』（2011）、『SUPERDISCOUNT』（2013）、『LADY EATS APPLE』（2016）、『ODDLANDS』（2017）、『THE SHADOW WHOSE PREY THE HUNTER BECOMES』（2019年9月初演）を演出。2022年、劇団初の長編映画作品『SHADOW』が、サウス・バイ・サウスウエスト（SXSW）にてプレミア上映され、同フェスティバルのオーディエンス賞を受賞。



©Cherine Fahd for Carriageworks

バック・トゥ・バック・シアターでのグラッドウィンによる演出作品は世界有数の現代芸術祭や文化施設での公演をはじめとした大規模ツアーを行っている。2015年、オーストラリア・カウンシル・フォー・ジ・アーツの「演劇における優れた業績賞」を受賞。

バック・トゥ・バック・シアター

知的障害のある俳優を中心に、30年以上オーストラリアを拠点に活動を続ける劇団。2013年フェスティバル/トーキョー『ガネーシャ VS. 第三帝国』で初来日。2018年東京芸術劇場主催『スモール・メタル・オブジェクト』で再来日。社会の闇の部分に鋭く照射する作品は世界的に高い評価を得ている。インクルーシブ・シアターの先駆けであり「息苦しい現代社会」でいかにしたたかに生きることが可能かを常に問い続ける稀有な創作集団が見せるフィクションの力は、私たちへの大きな投げかけとなる。